

## 総会・研修会報告

### 第29回・日本白鳥の会総会

第29回日本白鳥の会総会は、2001年1月20日(土)に福島市飯坂温泉の伊勢屋で開催された。出席者は31人であった。

会長挨拶のあと、議長に茨城県水戸市の菊池昶史さんを選出し、議事を進めた。

1. 平成11年度決算報告と事業報告は、原案通り承認された。
2. 平成12年度予算案と事業計画は、原案通り承認された。事業計画の3大柱は研修会の開催、定時定点観察、会誌の発行である。定時定点観察のとりまとめは、これまでどおり菊池さんが担当することが了承された。
3. 会則第4条第3項に従い、浜頓別町の山内昇さんが名誉会員へ推薦され、総会において承認された。
4. 会則第6条、第8条に従い、役員改選が行われた。会長は、藤巻会長が再任され、理事の改選が行われた。新理事として、青森県の斎藤正宏氏が選任され、玉田誠氏、山内昇氏、蝦名猛義氏が任期終了となることが了承された。
5. 会費の改正意見が出され、会費は一律4,000円とし、維持会員及び維持会費は廃止することとなった。このため、会則第4条4項及び第12条3項は削除されることとなった。
6. 以前から、別々に開催されていた総会と研修会の開催については、しばらくの間、同時開催を続ける事となった。
7. 次期の研修会の開催地が、滋賀県湖北町琵琶湖に決定し、開催予定は2001年12月1～2日となる。また、次々回の研修会の候補地が、北海道浜頓別町クッチャロ湖となった。

### 平成11(1999)年度事業報告 (一部事務局日誌を含む)

- 平成11年4月21日 地球環境基金より「日本の白鳥飛来地目録の作成」について、助成金不採択の通知。
- 平成12年1月18日 名誉会員相沢幸四郎さん・畠山正光さんのご逝去に対し弔電を送る。
- 平成12年1月24日 第28回日本白鳥の会総会及び第24回日本白鳥の会研修会「青森県下田町・間木堤」開催案内送付。
- 平成12年3月4～5日 第28回日本白鳥の会総会・第24回日本白鳥の会研修会を青森県下田町・間木堤で開催した。研修会における発表は次の題であった。
- |      |                         |
|------|-------------------------|
| 神谷 要 | ミレニアム花火によるコハクチョウへの影響と対応 |
| 澤田雪野 | 私の生きもの紀行                |
| 菊池昶史 | 白鳥類定時定点調査中間報告           |
| 阿部誠一 | 青森県の白鳥                  |

なお、神谷 要、阿部誠一両氏の発表は、「日本の白鳥」23・24号に掲載されている。

### 平成11(1999)年度決算報告

収入の部		
項 目	予算額 (円)	決算額 (円)
会費収入	556,000	498,000
会費外収入	10,000	33,500
前年度繰越金	295,649	295,649
合 計	861,649	827,149

支出の部		
項 目	予算額 (円)	決算額 (円)
印刷事務費	400,000	0
運賃通信費	97,200	37,610
消耗品費	30,000	2,260
WI日本委員会負担金	100,000	0
会議室使用料	84,000	0
予備費	150,449	16,120
合 計	861,649	55,990

次年度に繰越 771,159

### 平成11(1999)年度会計監査報告

会計監査の結果、正に相違ないことを認めます。

監事 山崎 安紀



星子 廉彰



### 第25回・日本白鳥の会研修会

2001年1月20日(土)～21日(日)に福島県福島市飯坂町西堀切「伊勢屋」及び福島市阿武隈川「岡部あぶくま親水公園」において、「第25回・日本白鳥の会研修会が開催された。

### 1. 研修会の開催について

この研修会は、全国各地のハクチョウ類に関する情報を交換する場として、毎年、ハクチョウ類が渡来している時期に開催されている。今回も総会に引き続いて各地で活動されている会員の発表が行われた。発表のあとは30分ほど自由時間をとり、懇親会を行った。翌21日には現地視察を行った。参加者は日本白鳥の会会員のほか、現地関係者を含め約50名であった。

### 2. 研究発表

各地の会員の中から、追加発表も含め、七題の発表があった。各地のハクチョウ類の状況や保護に対する取り組みなどについて発表された。なお、発表された内容については、できるだけ「日本の白鳥」に投稿していただくことになった。

- 1) 白鳥伝説にふれて 西成辰雄（秋田県十文字町）
- 2) 秋田皆瀬川での飛来状況と白鳥クラブの活動 奥州三四郎（秋田県十文字町）
- 3) 写真による白鳥の生態理解への試み 角田 分（山形県酒田市）
- 4) 昭和34-35年度白鳥の渡りの整理と現状分析、そしてこれからの保護策 荒尾 稔（東京都文京区）
- 5) 福島県内の白鳥飛来について 中井恒峯（福島県福島市）
- 6) 阿武隈川の白鳥について 八木 博（福島県福島市）
- 7) 米子水鳥公園の地震被害について 神谷 要（鳥取県米子市）

### 3. 白鳥渡来地現地観察会

1月21日(日)午前10:00より、ハクチョウの飛来地である阿武隈川岡部あぶくま親水公園で現地観察会が行われた。

阿武隈川は、昭和45年からハクチョウが飛来し始め、地元の故上竹二郎氏によって、給餌が行われたのが定着するきっかけとなった。現在は、八木博氏を中心に日本野鳥の会福島支部白鳥班の方々々が協力して給餌を行っている。当日は、約600羽のハクチョウと約12,000羽のオナガガモが阿武隈川に集まっており、午前10時から給餌が行われた。また、当日は福島市・福島観光協会の主催で、「白鳥とのふれあいの集い」が開催された。これにはハクチョウの里親の方々が集まり、観察会も行われた。このイベントは、県内外のハクチョウの里親へハクチョウとの触れ合いや地元の方々との交流を目的に開催され、同時にバスによる福島市内の観光施設への案内も行われている。このハクチョウの里親制度では、現在約660名が登録しており、当日は登録者のうち約130名の方々々が参加された。21日は観察会を12時ころまで続け、このあと解散した。（小西 敢）

来賓：山田義夫(福島市商工観光部次長)、大西亘(国土交通省東北地方整備局福島工事事務所所長)、甚野源次郎(福島県議会議員)、千葉佳信(福島県生活環境部環境政策課主任主査)

参加者：相澤庸郎、荒尾 稔、大津 栄二、黄海艶子、黄海のり子、黄海恒次、

奥州三四郎，大場みよ子，角田分，金子 勇策，金子 祥子，上川 和良，神谷要，川嶋保美，川田隆子，菊池和子，菊池 昶史，斎 勝美，小西敢，駒木根 和寿，齊藤正宏，佐々木吉治，佐藤 富雄，佐藤 征夫，白岩 康夫，曾根田芳江，高橋勝子，高橋好男，千葉慶悦，遠山 敏子，中井 恒峯，西田 恒子，西成辰雄，肥田 嘉昭，平野隆，藤卷裕蔵，古川博，星忠良，松木 勝彦，三浦研一，宮本 千帆，村井末吉，村瀬正夫，村本禎子，八木 博，八木トミ，渡辺ます子